

# 地域経済動向調査報告書

平成 29 年度 第 1 四半期

<平成 29 年 4 月から 6 月まで>

平成 29 年 8 月

調布市商工会

## <要旨>

D I の分析から読み取れる市内小規模事業者の第 1 四半期の状況は、前年同時期との比較でみると売上高は若干の改善傾向にあるが、仕入単価上昇の影響により採算面では前年同時期を下回る結果にとどまっている。売上の中身を見ると、売上件数・客数、売上数量が減少している一方で、売上単価・客単価が上昇して売り上げが増大しているという、数の減少を単価で補う形になっている。資金繰り、借入れの面では、目立った変化はない。

次期第 2 四半期の見通しとしては、今第 1 四半期と同様、一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多くを占めている。小売業においては、9 月下旬に開業が予定される調布駅前的大型商業施設の影響をマイナスにとらえる様子が読み取れる。

経営上の問題としては、人手不足をあげる回答が上位を占めており、人材の確保が容易ではないことが読み取れる。

なお、本報告書での D I（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$D I = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

## 1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業 4 社、建設業 6 社、小売業 10 社、飲食業 14 社、サービス業 16 社の小規模事業者計 50 社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ別紙「中小企業景況調査票」への記入によって実施した地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、第 1 四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）の調査結果をまとめたものである。

## 2. 今四半期の状況

今四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）の状況を前年同四半期（平成 28 年 4 月から 6 月）と前四半期（平成 29 年 1 月から 3 月まで）との比較で調査した。また、一部の項目は今四半期の水準についても調査した。

### 2.1. 売上高の動向

#### 2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 4～6 月比	0	△ 25.0	33.3	20.0	0	△ 18.8
H29. 1～3 月比	12.0	50.0	0	30.0	0	6.3

H28. 4～6 月比では業種ごとに好転と悪化のバラツキがみられたが、H29. 1～3 月比では業種ごとのバラツキはあるものの、概ね改善の傾向にある。

#### 2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H28. 4～6 月比	6.1	△ 8.0	△ 4.5
H29. 1～3 月比	22.4	8.0	4.5

売上を構成する要因別にその動向をみると、H28. 4～6 月比では売上件数・客数および売上数量の減少を売上単価・客単価の上昇で補って売上を維持していることが読み取れる。H29. 1～3 月比では、いずれの項目についても改善の傾向が読み取れるが、なかでも単価の上昇を指摘する回答が目立ち、売上単価・客単価の上昇による売上の改善という構造であることがうかがわれる。

## 2.2. 仕入動向<sup>1</sup>

	仕入単価
H28. 4～6 月比	△ 34.7
H29. 1～3 月比	△ 22.4

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答が多いが、H28. 4～6 月比より H29. 1～3 月比の方が改善を示すものとなっており、仕入単価沈静化の傾向が読み取れる。

## 2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 4～6 月比	△ 10.4	△ 50.0	0	25.0	△ 21.4	△ 12.5
H29. 1～3 月比	△ 4.2	25.0	△ 16.7	12.5	△ 35.7	12.5
H29. 4～6 月の水準 <sup>2</sup>	14.0	50.0	33.3	30.0	△ 21.4	18.8

H28. 4～6 月比で見ると、小売業、建設業を除く他の業種では悪化の傾向にあり、全体を通じても悪化している。H29. 1～3 月比で見ると特に飲食業では依然として厳しい状況を示しているが、全体としては改善の兆しがみられる。H29. 4～6 月の採算の水準としては、飲食業で「赤字」という回答が多く依然として厳しい状況が続いていることが読み取れる。

## 2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 4～6 月比	2.0	△ 50.0	33.3	11.1	0	0
H29. 1～3 月比	12.2	0	33.3	11.1	7.1	12.5
H29. 4～6 月の水準 <sup>3</sup>	△ 16.0	△ 25.0	16.7	△ 50.0	0	△ 18.8

全体を通じたDIでは、H28. 4～6 月比では大きな変化はなく、H29. 1～3 月比では改善の傾向がみられた。業種別では、建設業ではいずれの比較でも改善傾向にある。

H29. 4～6 月の業況の水準については、プラスとなった業種は建設業のみであり、その他の業種では厳しい業況にあることが読み取れる。

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次四半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H29. 4～6 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H29. 4～6 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

H29. 4～6月の状況の傾向を総じて分析すれば、売上高はH29. 1～3月からは若干の改善傾向にあり、H28. 4～6月並み水準まで回復したものとみられる。他方で仕入単価上昇の影響により、採算面ではH28. 4～6月を下回る結果にとどまっていることが読み取れる。

## 2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H28. 4～6月比	△ 4.1	
H29. 1～3月比	2.0	0

資金繰り、借入難度のいずれも、大きな変化はないことが読み取れる。

## 2.6. 人材

### 2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 4～6月比	12.8	25.0	16.7	11.1	15.4	6.7
H29. 1～3月比	0	25.0	0	0	0	△ 6.7
H29. 4～6月の水準 <sup>4</sup>	△ 36.2	△ 25.0	△ 50.0	△ 22.2	△ 38.5	△ 40.0

全業種を通じ、H28. 4～6月比で従業員の増加を示すものとなったが、H29. 1～3月比では目立った変化はないものとなった。従業員の充足に関するH29. 4～6月の水準としては、全業種を通じて人手不足を強く示す結果となっている。特に建設業、サービス業、飲食業での人手不足が際立っていることが読み取れる。

### 2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

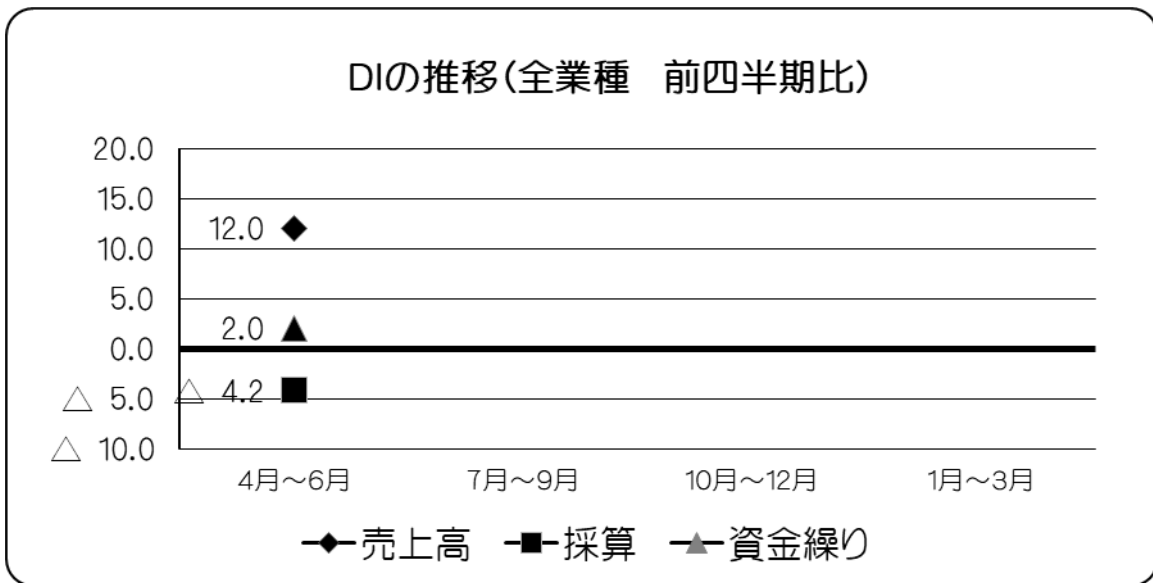
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 4～6月比	6.3	0	20.0	20.0	△ 12.5	10.0
H29. 1～3月比	△ 6.3	△ 25.0	△ 20.0	0	△ 12.5	10.0

特に目立った変化は読み取れない。

## 2.7. 推移

各四半期の全体の前四半期比のDI（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。

4「従業員（含む 臨時・パート）」における「H29. 4～6月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。



### 3. 次四半期の見通し

次四半期（平成 29 年 7 月から 9 月まで）の見通しを前年同四半期（平成 28 年 7 月から 9 月まで）と今四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）との比較で調査した。

#### 3. 1. 売上高の見通し

##### 3. 1. 1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	18.0	0	50.0	10.0	0	31.3
H29. 4～6 月比	14.0	0	33.3	△ 30.0	14.3	37.5

全体として H28. 7～9 月比、H29. 4～6 月比とも改善を見込む回答が多いが、業種によるバラツキがみられる。なかでも、小売業の消極的な見通しが特徴的である。

##### 3. 1. 2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H28. 7～9 月比	14.3	6.0	6.8
H29. 4～6 月比	8.2	12.0	9.1

今後の売上増の要因として、売上単価・客単価の上昇だけから売上件数・客数および売上数量の増加を見込むものとなっており、市場全体の厚みが増す見通しを示している。

### 3.2. 仕入の見通し

	仕入単価
H28. 7～9 月比	△ 30.6
H29. 4～6 月比	△ 28.5

仕入単価の上昇を見込む回答が多く、H29. 4～6 月の状況が継続するとの見通しが多くを占めている。

### 3.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	4.2	0	16.7	△ 12.5	△ 14.3	25.0
H29. 4～6 月比	8.3	0	16.7	△ 37.5	0	37.5

全体的には若干の改善を見込むものではあるが、小売業では消極的な見通しを示すなど、業種によるバラツキがみられる。

### 3.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	6.3	0	33.3	△ 12.5	0	12.5
H29. 4～6 月比	10.2	0	33.3	△ 33.3	7.1	31.3

サービス業、建設業を中心に全体的には若干の改善が見込まれているが、小売業では悪化を見込む回答もあり、業種によるバラツキがみられる。

H29. 7～9 月の見通しを総じて分析すれば、H29. 4～6 月と同様、一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多く、地域経済は回復基調にあるものの、その歩みは遅いものとみられる。

なお、小売業では H29. 4～6 月の業況に改善傾向が見られた一方で、H29. 7～9 月の業況の見通しでは一転、悪化を見込んでいる。これは、調布駅前の大型商業施設の開業が本年 9 月に予定されていることへの懸念が反映されたものと推察される。

### 3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H28. 7～9 月比	△ 2.0	
H29. 4～6 月比	2.0	△ 2.2

特に目立った傾向は読み取れず、現状の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

### 3.6. 人材

#### 3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	2.1	0	33.3	11.1	△ 7.7	△ 6.7
H29. 4～6 月比	0	0	16.7	0	△ 7.7	0

全体として特に目立った傾向は読み取れず、現状同様人手不足の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

#### 3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	△ 3.1	0	0	20.0	△ 12.5	△ 10.0
H29. 4～6 月比	△ 3.1	0	0	0	△ 12.5	0

全体として特に目立った傾向は読み取れず、現状と同様に人手不足の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

### 4. 設備投資

設備投資の動向について、今四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）の実績と次四半期（平成 29 年 7 月から 9 月まで）の計画を調査した。

	実施／計画 していない	実施した / 計画している				
		建物 店舗	機械 設備 備品	車両・ 運搬具	付帯 施設	I T 機器
H29. 4～6 月実績	74%	10%	14%	4%	4%	4%
H29. 7～9 月計画	72%	6%	14%	6%	2%	2%

設備投資については H29. 4～6 月の実績、H29. 7～9 月の計画とも 7 割超の事業所が実施も計画もしていない。

### 5. 経営上の問題点

今四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に 3 つ以内）を調査した。

1位の問題点	内 容 <sup>5</sup>	1位～3位の問題点
16%	従業員（含パート等）の確保難	30%
12%	熟練技術者の確保難	26%
10%	設備・機器・店舗の老朽化	18%
8%	大企業・大規模店舗の進出による競争の激化	12%
8%	売上単価の低下・上昇難	16%
8%	仕入（外注）単価の上昇	20%
8%	需要の停滞	22%
2%	売上（取引）件数の減少	20%

人手不足をあげる回答が上位を占め、採用環境の厳しさを最大の経営問題ととらえている。また、設備・機器・店舗の老朽化をあげる回答も目立ち、設備投資のための資金手当て等が経営上の課題となっていることがうかがわれる。次いで、大企業・大規模店舗の進出による競争の激化を指摘する回答も多く、9月下旬に予定される調布駅前的大型商業施設の開業の影響が、プラスとマイナスの両面にどのように現れるのが注視する必要がある。

---

<sup>5</sup> 「1位」、「1位～3位」のそれぞれ上位5位までの選択肢が含まれるように抽出した。